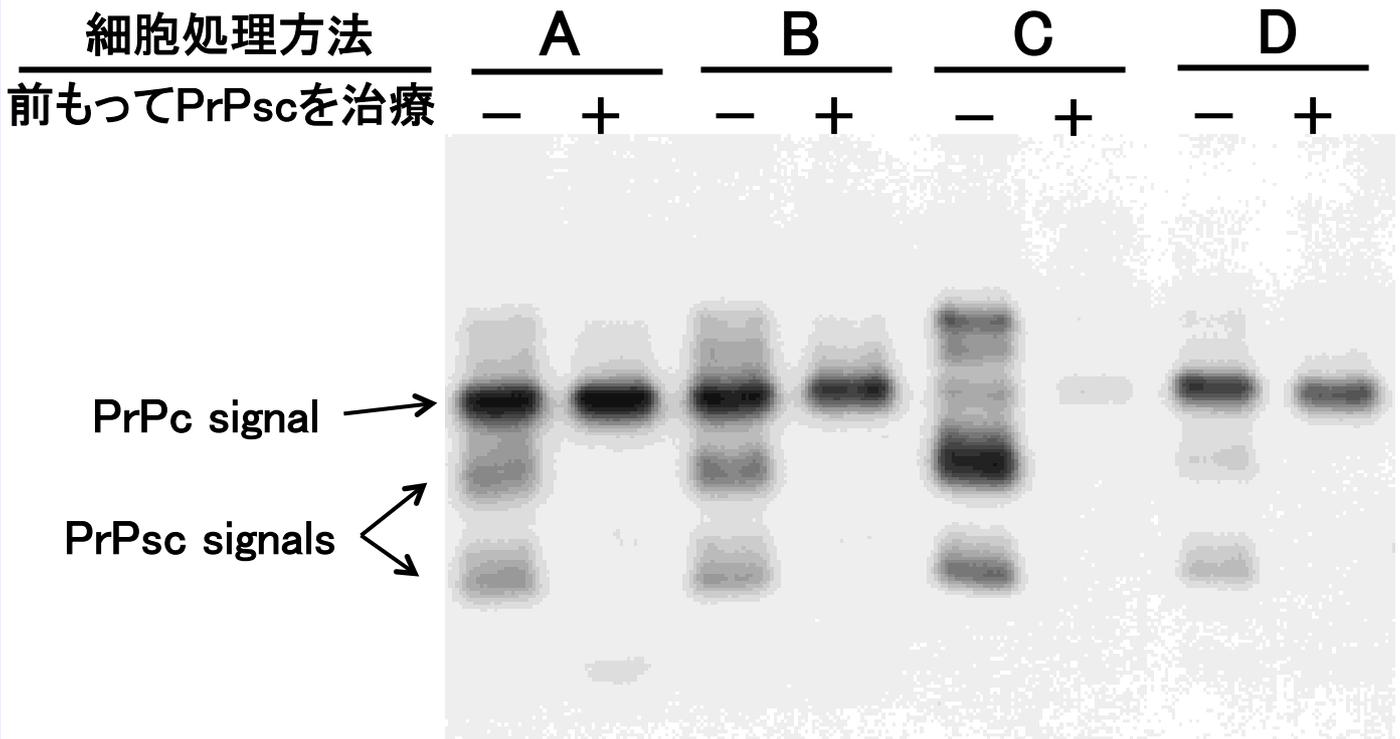


## 治療薬探索に最適なプリオン感染細胞モデルの作製と 同モデルを用いた治療薬探索

研究開発分担者： 東北大学医学系研究科 堂浦克美



### 解説

1. ビボに近い状態の細胞モデル(細胞が非分裂状態でプリオンが飽和状態)で治療薬を探索すれば、治療効果に優れた化合物を発見できる可能性がある。そこで、プリオン持続感染細胞を用いて、最適な細胞モデルの作製を検討した。
2. 様々な条件を検討したが、図にあるのは代表的なデータである。A~Dの方法で処理した細胞中に含まれる全てのプリオン蛋白(PrPc + PrPsc)のシグナルを示している。正常型プリオン蛋白(PrPc)のシグナルを示すために、細胞を処理する直前に、前もって異常型プリオン蛋白(PrPsc)を治療したもの(治療+)も併せて提示している。
3. C処理の細胞は、細胞内にPrPcは相対的に少なく、PrPscが大量に蓄積して飽和状態にあり、治療薬探索に最適な細胞モデルである。